

背景 「VUCA」の時代に、様々な社会課題をはじめ現代からは予想だにしない社会の変化にも対峙していく。そうした課題を自分事としてとらえ、主体的に考え、他者と協働し課題を解決していく意欲や資質・能力を育てることや社会全体の幸せや豊かさを追求する姿勢を育む教育が求められている。

教育目標

一人ひとりが希望をもって、未来に向かって自分の力で歩いていける児童の育成

心

ゆたかな子 人を思いやる
やさしさ・いのちの大切さが分
かり、価値あるものを見いだそ
うとする子どもを育てる。

学

ともに ぶ子 思いや考えを
伝え合い学び合いながら、自分
の学びを深める子どもを育て
る。

健

たくましく生きる子 心身とも
に健康で、自分の力で課題解
決しようとする子どもを育て
る。

主な方向性

全ての児童の「個性」や「可能性」を認め、最大限に高める

全ての教育活動を「質」の観点から問い直し、再構築する

- ・ 個別最適な学び
- ・ 協働的な学び
- ・ ダイバーシティ（多様性）
- ・ インクルージョン（包括性）
- ・ オーセンティック（本物・信頼性）
- ・ パーチャルリアリティ（仮想・疑似体験）

実現には、地域・保護者との
連携および協力が不可欠

未来志向

- ★「児童が主語」になる
ような魅力的な授業を
創造することによっ
て、未来に希望を抱く
最先端の学習体験をさ
せる。
- ・ デジタル活用・問題解
決学習・教科担任制

本物志向

- ★児童が教員や外部人材に
対して憧れをもち、自己
肯定感を高めることによ
って、人生を前向きに生
きていくことができるよ
うに価値ある体験をさせ
る。
- ・ 体験活動・問題解決学
習・スペシャリスト



学校経営計画

1. 未来志向の児童の育成

経営目標	GIGAスクール構想に基づく学習者用端末をフル活用した教育活動を通して、未来に希望をもてる児童を育成する。		
具体的な方策	(1)学習指導の改善	(2)教科担任制等の実施	(3)学習者用端末の活用
(1)	学習指導の改善	「Society5.0時代」を生きる児童の育成を踏まえ、前例に拘らない学習スタイルを採用した「新たな学び」の形を確立する	
	<p>「児童が主役」の学習活動を展開するために必要となるのが、課題を自分事として見つめる“目”である。課題を自分事として捉えた時、「本気」「熱中」「感動」を覚える。児童が本気になり、熱中すれば、教師の細かな指導は必要なくなる。児童が自分の力で進んでいけるように、課題をもたせる学習問題の作成と問題解決能力の育成を図る。</p> <p>○「<u>問題解決学習</u>」を中心に据えた多様な学習スタイル（STEAM、自己調整、反転）の確立</p> <p>○<u>ノーチャイム制の導入</u>による1単位時間に捉われない学習時間の活用</p> <p>○ワークテストからの脱却を図り（国語・算数のみ実施）、主体的な学びを中心にした☆「総合的な学習の時間」「おおたの未来づくり」を中心にした探究的学習の充実</p>		
(2)	教科担任制等の実施	教員の専門性や特技を生かした一部教科における疑似教科担任制（持ち合い授業）を導入して指導力向上を目指す	
	<p>児童の確実な成長をもたらすために必要となるのが、一体的に実施される教育活動である。児童の発達段階に応じて、教科担任制を取り入れる。教員は学年全体の児童の様子と理解力を把握し、児童は統一された指導を受けることによる安心・安定を図ることができる。</p> <p>○社会（3h）⇄理科（3h）等の教科担任</p> <p>○道徳の単元ごとによる指導教員の交換授業</p>		
(3)	学習者用端末の活用	「おおた教育ビジョンの基本方針1の個別目標1施策(3)の情報活用能力の育成」を踏まえ、全授業でのフル活用させる	
	<p>未来社会を生きるために必要となるのが、情報活用能力である。学習者用端末は、ヒトの知性を増幅させる装置と位置付け、「<u>問題解決ツール</u>」、「<u>文房具</u>」、「<u>ドリル</u>」として児童に普段使いさせる。毎日の持ち帰りを通して、「<u>コミュニケーションツール</u>」としての活用も行い、児童の情報活用能力の伸長を図る。</p> <p>○Googleドキュメント スライド スプレッドシート を活用した<u>ノートづくり</u>や<u>共同作業</u></p> <p>○Google Meet 学びポケット Classroom を活用した連絡帳・<u>情報伝達</u></p> <p>○「漢字ドリル」「計算ドリル」から脱却し、「<u>デジタルドリル</u>」の活用</p>		
※	<p>①生命（いのち）を大切にし、「生命（いのち）の安全教育」を推進する。4年生以上の児童全員を対象としたスクールカウンセラーの面談を行い、心のケアを大切にする。</p> <p>②「性的マイノリティ」とされる児童は特別の支援が必要な場合があり、心情等に配慮した対応を行うなど日常から人権意識の醸成を図る。</p> <p>③学校のきまりは、児童が自分事としてその意味を理解して自主的に守るよう指導し、児童や保護者等からの意見を聞いて絶えず見直しを行っていく。</p>		

2. 本物志向の学校づくり

経営目標	児童が達成感や充実感を味わう価値ある体験的活動を取り入れた教育活動を展開し、「できた」「分かった」「すごい」と感じる「心」が動く授業を実現する。	
具体的な方策	(1)自立した学習者を育てる教育環境の整備	(2)外部人材の導入
	(3)体験活動の充実	
(1)	自立した学習者を育てる教育環境の整備	「おおた教育ビジョンの基本方針1の個別目標1施策(2)の主体的に考え、行動し、協働していく力の育成」を実現する
	<p>旧来の「教える・教わる」授業の形態では、指導者がいないと学べない。しかし、未来では学校を巣立ち、社会を生きるために必要となるのが、自立した学習者となる力である。一斉授業の中では、主語は教師で「教師が～な指導をする」ことがテーマとなるが、こどもが主語となる授業では、「こどもが～な学びをする」ことになる。そのために児童が主体的に学習を進めるための教育環境を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一斉指導からの脱却と個別最適な学習の場づくり ○問題解決学習を中心に据えた児童の主体性を生み出す（導入の精選） ○（月曜を除く）朝の時間に「読書タイム」を設定し、言葉をよりよく使う素養の育成 <p>☆教師は「Teacher」から「Facilitator」へ、そして「Generator」を目指す</p>	
(2)	外部人材の導入	範となる人物としての外部人材を導入した授業を展開し、大人への憧れや感動を与える
	<p>人が成長するために必要となるのが、自己をアップデートし続けることである。そのための原動力は“学びに向かう力”である。範となる人物（スペシャリスト）と出会いというホンモノ体験により、その涵養を図る。「社会に開かれた教育課程」の実現に直結する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域人材、NPO法人、企業、プロ選手等のあらゆる教育資源の活用 ○各学年10人、20時間以上の外部人材による特別授業の実施 <p>☆「キャリア教育」「専門家講座」を中心にし、心が動く授業の演出</p>	
(3)	体験活動の充実	実際に体験することで諸感覚を研ぎ澄ますことや特活での成功体験を通して、児童に価値ある体験をさせる
	<p>人は“知”よりも“情”で物事を判断する。その情を深めるためには、諸感覚を研ぎ澄ますことが必要である。そのために体験活動を充実させることによって、その成長の機会を確保する。その中で、感じたことが後の人生の道標となる。また、あらゆる活動の成功体験を通して、「やれば、できる」を感得させ、自尊感情が育つよう努力の価値を実感させることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ネットによる調べ学習に寄らない体験型学習や校外学習の充実 ○自治的な特活を促がし、自己の力で、仲間との力での取組の重視 ○入四ランを柱とする「体力向上プロジェクト」による日常の身体的活動の実施 	

※広報活動

経営目標	教育活動に対する理解と協力を得ることができるよう学校行事や平常の学習の様子を保護者や地域に伝える
	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページの「入四日記」を年間100回更新 ○保護者会を“学級懇談会”に変更し、双方向の情報共有（オンライン参加の奨励） ○地域行事やPTA行事への理解と推奨

